

## 環境大臣賞（優秀賞）

水は誰のもの？～水のリレー～

京都府 京都市立西京高等学校附属中学校 二年 河井 紀乃

「ハア。なんで雨の日にこんな山のほうまでいかなあかんのやろう？」

小学四年生の遠足。テーマは「水について考える」だ。

「水の学習だけなら、小学校のインターネットで調べただけで十分やと思うけどな。」

それでもバスは滋賀県・針江に向かって走り続けている。

バスが止まった。私達はカッパを着てバスを降りる。最初の目的地は民家。

ここに何があるというのか。私達は十人ずつ家に入り中を見せてもらう。

「すごい。」

順番を待っていると中から歓声が聞こえてきた。何？何があるんだ？私はワクワクした。ついに順番が回ってきた。ドキン。ドキン。胸が高鳴る。台所のようなところに案内された。そこには…

「えーっ。池？」

数メートル四方の穴に水が溜められている。少しだけ穴があいており、外の水路とつながっているようだ。

「ここでは湧水を壺池というこのような場所に流し入れています。」

「水の中に沈んでいるのは…？」

「あー。それは野菜よ。この中の水はキレイで夏でも冷たいからちよつとした物を冷やしたり料理や飲料用にも使えるの。」

「たぐさんの使い道があるんだ。」

「ここではこのキレイな水を無駄にしないように工夫しているの。ここから溢れた水は端池というところにいくのよ。そこにも工夫があるからぜひ見てね。」

まだ雨はしとしと降っているが私はもう気にならなかつた。端池の工夫って何だろう？早く見たいな。やがて端池が見えてきた。

「ここではコイやフナなどの淡水魚が飼われています。食べかすや使用済みのお皿や鍋を沈めておくと淡水魚が汚れを食べてくれます。それだけで食器

がキレイになるから洗剤も使わないし、水は汚れません。ここでもう一度キレイになった水は琵琶湖に流れ込み、そして皆さんにも水が届くのです。」

「すごいな。」

「水をキレイに使ってくれる針江の人がいてこそ京都の水があるんだ。感謝しないと。」

その時は、私もこのコイのように食べ物は残さないようにしようと漠然と思っていた。

そして今私は中学二年生になった。最近、学校で国際河川について勉強した。国際河川の上流にある国が汚濁原因物質を排出しており下流の国々に問題が起きていくという。私は授業を聞きながらふと四年生の時の遠足を思い出していた。私達の住む京都の上流に位置する針江の人達などは水をキレイに使ってくれる。しかし、私達京都の人間に水が届けば終わりという訳ではない。私達の使った水はまたその下流、大阪などに流れる。つまりまだこの水のリレーは終わっていない。私達京都の人間も次に水を使う人にキレイな水を届けなければいけないのだ。もちろん下水は処理場でキレイになるが、それを当たり前だと思つて良いのだろうか。このような取り組みは、一人一人の気持ちが大切だと思つた。皿を洗う時、水で落ちにくい汚れはまず拭き取っているか。下水場を通らない川に汚物を捨てていないか。こうした小さな取り組みが集まると大きな力になる。国や市に頼るだけではいけない。こうした意識は世界の国際河川などの問題解決の糸口とも共通するところがあるのではないか。

針江のように水のリレーを成功させているところは世界中にまだまだあると思う。そういう場所を多くの人が知り、リレーの素晴らしさを学んでいくことが未来を担う私達に必要なことだと思う。